

警城時報

石城郡平町新聞社 編集長 佐藤武雄 印刷所 石城郡平町新聞社印刷部

今曉平町の大火

七戸八棟全焼

猛烈な空風のため 附近修羅場と化す

煙草の吸殻

失火原因は

十二日午前一時十分平町十五町建物も一時危険に瀕したが消防員建具職山崎喜一郎方細工場が手の努力によつて僅か八棟を焼ら発火し折柄猛烈な空風が吹き出したので鎮火したのは殆んどまくつてゐたため火は見る見る奇蹟的であると云はれてゐる。うち山崎方を全焼し隣家なる作山門方に延焼、警備と警備によつて平消防組を始め附近各村の消防組駆けつけ消火に努力したが、同所は人家稠密の箇所として隣家なる大槻徳蔵、菓子業久保田六五郎、袋屋小谷勇藏、菊酒屋佐藤武雄、竹屋岩崎光悦具職山崎喜一郎方で十一日夜業の七戸を全焼した外元永野柳造を行つた深夜十二時頃作業を終え氏の宅の空室を覗き込んで午後九時頃職人佐藤昇(二)が煙草を前二時半鎮火したが、強風のた吸つてその殻を捨てた煙草から火の粉は遙か新川町方面にまで大勢にまつたものと判明、平署で飛散し十五丁目東側は勿論元では直ちに佐藤昇を失火罪とし石城郡役所、警城共済病院等で大検事局に送つた。

平消防組の偉力

平町十五町目の火災は一般の見聞的に變れてゐる事を如實に發する處では同町東側に延焼し附近揮したもので一般では今更乍ら一帶を焼き盡すものと信じ風下平消防組の偉力に感嘆してゐるの人々は何れも家財道具を取懸けられたるに前記の程度で止まつたのは平消防組の設備と組員の訓練が全今回の火災に際して火事を大事

殊勳者

殊勳者

病院と共に消えやうと

決意した賀澤氏

見事な患者の運び出し

植竹源太郎氏

遂に長逝

警城共済病院は火の粉をかぶつ株式社警城、平、警越、警賀に最も大きな建物として類焼は四銀行の定期株主總會は二十二日到底免れまいと見られたため同日各行とも開催し昭和二年院主事賀澤治氏を始め各醫師度下半期決算報告、利益金處分は手傳人と協力して先づ十名の案等について協議をなすこと。

罹災者立退先

火事罹災者の立退先左の如し。▲小谷勇藏(扇屋)▲佐藤武雄(土橋通り)▲作山門(材木町)▲柏屋染物店▲岩崎光悦(元郡役所)

白銀町區民大會

櫻井町議彈劾理由

平町白銀町區民の納稅組合信殖年度庶務報告、同健康保險庶務會問題に關する町會議員櫻井清報告後任吉屋本店で新年宴會を一時から平劇場を開いた、櫻井氏彈劾理由を聞く。

四倉漁業で低資借入

石城郡内各領は一昨年の不漁が極度に祟つて漁業家は非常に苦しい立場にあり各漁業組合ではこれが救済策として低利資金の借り入れに奔走してゐるが四倉町漁業組合では今回縣會議員鈴木

一圓毎に福引券一本呈上

五十錢でも半本差上げます

舊十二月廿二日より十二月廿八日迄 新一月十四日より一月二十日迄

四丁目聯合福引大賣出し

桐箆筒、夜具、布團、メリヤスシヤツ、反物等々 積んで山の如し

四町目商人の實質本位の商振りを御試み下さい

卓球リーグ戦 平町 木辰三郎氏の盡力に依つて三萬六千圓の低利資金を借り入れる事ができたので非常に喜んでゐる。 四丁目では例年の如く舊年平町四丁目では例年の如く舊年聯合賣出し 最品山の如し

醫師會總會

石城郡醫師會總會は十二日午後末聯合福引大賣出しを開催する。 平町四丁目では例年の如く舊年聯合賣出し 最品山の如し

家相と運勢

(二) 石島生 釋尊の遺した經典や、キリストが與へた聖書は、如何に物質文明の現代に於ても加除訂正すべき瑕瑾を認め得ぬと同様に、家相法も亦た萬古不滅の真理が存在するのである。而して此の家相法は、陰陽の

月二十二日)から二十日(舊十二月二十八日)迄七日間、聯合賣出しの加盟店では一圓の買上になつてゐる、賣品は桐箆筒、夜具、反物、メリヤス等山をなしてゐるから開催の上は定めし盛況を呈するであらう。

三町目 福引大賣出し開

一、期間 自一月十四日(舊廿二日)八日間
至一月廿一日(舊廿九日)

二、景品 一等特製桐箆筒 二等丸帶、時計
御召反物 二等鏡臺、柱時計、鹽引
四等メリヤスシヤツ、下駄、蛇目傘
以下六等迄空籤なく總當り

三、一圓毎に福引券呈上

四、福引換所 三丁目丸又商店方

謝近火御見舞

平町 仲町
二葉印刷所
熊謙次郎

近火御禮

今曉の際に早速御馳付消防に御盡力被下御蔭を以て大
事に至らず候段難有奉深謝候一々拜趨御禮可申上候の處
混雜の際乍略儀書中を以て御禮申上候 敬具

一月十三日 平町南町第四組

松村 眼科 病院
星屋 染物 店
大谷 直次郎
齋藤 鐵次郎

謝近火御見舞

今曉近火の際に早速御馳付御盡力被下且つ
御見舞を賜はり御蔭にて大事に至らず候
段難有奉深謝候一々拜趨御禮申上可き筈の
處乍略儀以紙上御禮申上候

一月十二日

平町十五丁目
元石城郡役所
管理者 安島八郎

謝近火御見舞

今曉近火の際に早速御馳付御見舞下され難有奉深謝候一々
拜趨御禮申上可き筈の處混雜中御尊名伺洩れも可有之乍
略儀以紙上御禮申上候

平町南町

酒井 井田 齋院
大和 田 齋院
萩原 齒科 齋院
大森 森 齋院

謝近火御見舞

いはらき新聞平支局
いはらき新聞販賣所
中村 謙藏

近火御見舞御禮

平町南町第二組一同

近火御見舞御禮

平町南町第三組一同

近火御見舞御禮

拙者管理に係る勝軍地蔵尊並に二十三夜尊を安置する二
十三夜堂近火の際に種々御盡力下され候段を以て類焼を
免れ候段厚く御禮申上候先乍略儀以紙上御禮申上候

平町 善提院
住職 桐原英純

謝近火御見舞

今曉近火の際に早速御馳付御見舞下され御
蔭にて類焼を免れ候段厚く御禮申上候一
一拜趨御禮申上可き筈の處混雜中御尊
名伺洩れも可有之乍略儀以紙上御禮申上候

一月十二日 平町大町
河田梅吉

謝近火御見舞

株式會社磐越銀行

謝近火御見舞

今曉近火の際に早速御馳付御見舞下され
蔭にて類焼を免れ候段難有奉深謝候一々
拜趨御禮申上可き筈の處混雜の際御尊名
伺洩れも可有之乍略儀以紙上御禮申上候

平町十五丁目
磐越中學校長官舎
唐土齊治

謝近火御見舞

今曉近火の際に早速御馳付消防に御盡力被
下且御見舞を賜り御蔭にて鎮火致候段厚
く御禮申上候一々拜趨御禮申上可き筈の處
混雜中御尊名伺洩れも可有之乍略儀以紙上御
禮申上候 敬具

猶出水と同時に患者全部を看護婦附添へて避難致し何
れも病狀に異變無之候間御休心被下度願上候

一月十二日

院長 醫學博士 難波 治睦
病院長 主事 賀澤 忠

磐城共濟病院

植竹源太郎儀

永々病氣の處藥石
効なく一月十一日午後五時二十五分死去
仕候間御通知に代へ此段謹告仕候也
追て送葬の儀は一月十四日午後一時自宅出棺平町
長源寺に於て佛式を以て執行可仕候
尚故人の遺志により勝手ながら追花放鳥香奠等一
切御辭退仕候

昭和三年一月十一日 平町 齋城跡

親戚總代 長野 幹
友人總代 桐谷 文
青沼 太郎

謝近火御見舞

平町南町
松本樓

謝近火御見舞

平町南町
大和家

謝近火御見舞御禮

平町十五丁目
大間喜繁
松田卯二朗

謝近火御見舞

平町十五丁目
兒山材木店
兒山泰



着ナフトル
着尺モスリン
模倣銘仙

龜田屋
電話五七

原田醫院

平町土通
電話三一番